



自然の解説者

夏季号 [第68号] 2020年7月13日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
 事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
 2425-28 櫻井昭寛方
 電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
 編集：総務企画部会

ぐんま自然観察指導員会

会長 高橋 文吾

私たちぐんま自然観察指導員会は、公益財団法人日本自然保護協会（以下 NACS-J）が開催している自然観察指導員講習を受講し、NACS-J に自然観察指導員として登録した人を中心に現在 170 名程の会員がいます。

当会の目的は、会員相互の連絡・連携を図りながら、地域の自然観察活動を充実・振興することにより自然保護活動を推進することとしています。

会の歴史は古く、NACS-J の自然観察指導員講習会の第 1 回目の講習は 1978 年 7 月に神奈川県立足柄青年の家を会場に行われました。その年に東京都 2 回、兵庫県と講習があり、翌年の 1979 年 7 月に第 5 回となる講習が群馬県妙義少年の家で開催されました。この時に受講したメンバーにより設立され 40 年ほどの歴史を歩んでいます。NACS-J の自然観察指導員講習会は現在でも国内各地で開催されていて、初回から今までに開催された講習会は延べ 550 回を超えるに至っています。また NACS-J の指導員連絡会は日本全国に 40 団体以上あり、他の指導員会との交流等も図っています。

会の活動としては研修観察会の実施や会報発行、他団体との交流や講師派遣の支援等も行っています。野外で行われる研修観察会は 4 回／年実施し、群馬県内各地の毎回違う場所を選定した中でその地域の自然の特徴を学んでいます。またこれとは別に尾瀬については尾瀬研修として、室内研修で事前学習をしたあとに実際に尾瀬のフィールドにて状況を確認する 2 回仕立ての研修を行っているほか、個別の分野を対象とした特別研修会も行っています。

昨年度は、スマイル・変形菌・群馬の地質についての特別研修を行いました。

地域に自然観察指導員がいることで…人々は地域の自然に関心を持てる⇒人々は地域の自然がよくわかる⇒人々に地域の自然の姿が見えてくる⇒人々は地域の自然を守ろうと思う⇒そして最終的には地域の自然が維持される。このことを望み日頃の活動に取り組んでいます。

自然好きの方や自然に興味をお持ちの方、ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか？

詳しくは事務局まで

事務局：〒371-0024 前橋市表町 2-28-14 国安俊夫様方

Tel: 090-2912-3514 e-mail:kuniyasu-t@y5.dion.ne.jp



校庭の樹木⑬ ～一里塚に植えられたエノキ～

顧問 亀井 健一

校庭で行う自然体験活動の打ち合わせに高崎市立北小学校を訪れたとき、最初に目にとまったのは、校庭の真ん中にあるエノキ（榎）の巨木です。校歌に詠まれている学校のシンボルの木です。学校によると、この木はかの中曽根康弘氏が在学していたときに既に目立つ木であったそうです。測ってみると、地面から高さ 1.3m の幹周が 4.6m（直径約 1.5m）ありました。これに匹敵するものは桐生市立相生小学校のエノキです。どちらも環境省が定めた巨樹巨木の範囲に入ります。伊勢崎市立境剛志小学校では、学校近くのおんたけ山で自然体験活動を行っていますが、ここは昔からの雑木山でエノキの大木が幾本もあります。

学校、公園、神社仏閣の境内、一里塚（例：みどり市笠懸町にある銅山街道の一里塚）などにエノキの大木が見られるのは、自生をそのまま利用したか、植えられたものでしょう。身近にあるエノキが、夏に大きな木陰をつくる木として好まれたと考えられます。なお、漢字「榎」は夏に木陰をつくる木という意味でつくられた和製漢字だそうです。



高崎北小学校のエノキ

一里塚とは、里程がわかるように街道の1里（約3.9km）ごとに道の両側に土盛りをして、エノキ、ムクノキ、マツなどを植えた塚のことで、高崎市上豊岡町にある中山道の一里塚はムクノキです。街道を通る人に里程を知らせ、休憩する日陰を提供したのでしょう。当時を想像していると、一里塚の緑陰で談笑する旅人の姿が浮かんできます。

エノキは、ニレ科（新分類ではアサ科エノキ属）の落葉高木で、樹高は最高20mぐらいになり、大きな樹冠をつくり、人里に近い雑木林に多く生えています。葉は互生し、葉身は大きい葉で長さ8cmほどの広楕円形です。多くの葉は、葉の半分ぐらい上に波状の鈍鋸歯があります。葉の表面が濃緑色になるころには葉の裏面はやや緑白色になります。葉の脈は、主脈と左右に出た2~3個の側脈が目立ちます。葉の裏面はざらつきます。

花期は4~5月、小さな目立たない花（雄花と両性花）が咲きます。雄花は新枝の下部につき、4個の雄しべが平開するように付いています。両性花は新枝の上部につきます。雌しべの先（柱頭）は2裂しています。この2裂している様子はよくわかります。エノキの果実は直径7mmほどの球形で秋に成熟し赤褐色になります。熟した実は小鳥に食べられ、消化されない堅い種子は糞としてばらまかれます。雑木林に点々とこの木があるのは、鳥散布により繁殖しているからです。

エノキは、オオムラサキ（国蝶）、ゴマダラチョウ、テングチョウなどの食樹（葉が幼虫の餌になる）として知られています。これらのチョウは、エノキに大きく依存しています。

和名エノキは、材で農具の柄を作ることから「柄の木」に、小鳥が実を食べることから「餌の木」に、縁を結ぶ木として「縁の木」に由来するなど諸説があり、はっきりしません。



葉の表面と裏面（左下）



上部につく両性花と下部につく雄花

<協会活動のトピック>

●第18回通常総会において役員任期満了に伴い役員改選を行いました。新役員と組織体制は次の通りです。

理事長：関端孝雄

総務企画部会 総務担当理事：櫻井昭寛、企画担当理事：茂木由美、観音山ファミリーパーク担当理事：大島純子
普及部会担当理事：久保田憲司、受託協力部会理事：中村久和子（新任）、インプリの森部会担当理事：酒井良征
監事：小崎昭一、宇多川紘

●浦野安孫元副理事長が令和2年度県総合表彰（部門：林業 森林自然解説ボランティア活動）と林野庁：野生生物保護功労者表彰を受賞しました。

●令和2年度「大人のための自然教室」は、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み中止としました。

<活動報告>

第18回通常総会 4月19日（日）新型コロナウイルス拡散拡大防止のため、議案書の郵送、ハガキ返信による書面議決にて実施しました。ハガキによる議決の結果、協会員166名中、返信123名で“みなし総会”成立。第1号~第4号議案賛成57名、理事長へ委任65名、合計122名賛成で全ての議案は承認されました。

会員資質向上研修1講演会「いのちの森づくり」 4月19日（日）花と緑の学習館 延期

敷島公園まつり 4月29日（水）敷島公園 中止

会員資質向上研修2 赤城山自然体験メニュー研修 5月4日（月）赤城山覚満淵周辺 8月30日（日）に延期

会員資質向上研修3 ネイチャーゲーム研修 5月16日（土）憩いの森学習センター 延期

連合群馬ふれあいフェスティバル 5月17日（日）前橋公園緑の広場 中止

観音山ファミリーパーク自然観察会 4月18日（土）、5月23日（土）自然の森 中止

会員資質向上研修4 榛名山ガイド研修 6月7日（日）榛名山沼ノ原 中止

前橋市子供育成会「親子で楽しむ木工教室」 6月21日（日）前橋総合福祉会館 中止

観音山ファミリーパーク自然観察会 6月27日（土）自然の森 講師：吉永真、住谷収
一般19名、協会員8名が参加してコロナ対策をしながらも楽しい観察会になりました。

インプリの森整備 4月25日（土）、5月9日（土）、5月23日（土）コロナ感染防止のため中止。6月13日（土）雨により中止。

6月21日（日）8名参加。次回刈払い作業に備え、実生などで育った広葉樹の回りの手刈りを行いました。（臨時作業）

6月27日（土）9名参加。安全祈願、刈払い機点検ののち刈払いと広葉樹の枝打ちを行いました。



緑の窓

自然を編む

第10期生 戸丸 幸子



私が籐編みを始めたのは、35年前 親戚の人が教えてくれるという事で、数人が集まって教えてもらったのがきっかけでした。初めて作った丸いカゴはいびつで、編み目も不揃いでしたが、形になったことが嬉しくて、籐編みに夢中になっていきました。始めは丸芯の籐から基本の形から手つきの丸かご、ごみ入れ、鉢カバー等々、慣れてくると2.5mmの籐から、3.0mmや1.5mm、1.0mmとなり、細い籐で花や人形と、大きい物から細かいものとなりました。そのうち丸芯では飽き足らず、アケビで作品を作るようになりました。アケビは、地下茎の部分で編みます。よく乾燥させ、編むときに水に漬けて柔らかくしてから、編み始めます。一度丸芯の籐から、山のアケビに材料が変わると、目先がそちらに行き、それから胡桃の木の皮、桜の木の皮、などで灯りや花器を作るようになりました。山ぶどうの蔓もその頃から先生の教室で主流になってきました。山葡萄の蔓採りは梅雨の頃で、期間は1年のうち、1週間から2週間程で、奥山の高い所から太い蔓を切って、皮を剥いで持ち帰るそうです。それを乾燥させ、なめして、同じ幅、同じ厚みに裂いて、作品を作ります。以前、先生に修理に送られてきたバッグは、50年以上使い込んでいるバッグでした。新しい物は、茶色ですが、年数経過ごとに色が濃くなり、それは黒く光って風格さえ感じられる物でした。持ち手と角の擦切れた部分を、新しい山葡萄で修理して甦り再び使われます。

今はクラフトの会でメンバーと一緒に作品作りを楽しむ程度になりました。ハイキングクラブで、山の中を歩いていると、見事な山葡萄の木に出会います。こんなに太い蔓ならバッグが何個出来るだろう？と、他の木とは違う特別な愛着が山葡萄の木にあるのは私だけでしょうか。

昔から冬の間の手仕事で続いてきたカゴ作り。生活必需品から今は、嗜好品へと作る物は変わってきていますが、ずっと後世まで作り続けて欲しいと願っています。



藤で編んだウサギ



枝を同じ幅に切って編んだ、胡桃のバッグ

豆知識

雑草の話 18 トキワハゼ

理事長 関端 孝雄

庭のあちらこちらにチドメグサがはびこり、草取りを余儀なくされました。むしっていると幾つかの雑草が目に入りました。ツメクサ、トキワハゼ、カタバミ、スミレなど。ここでは何れも極可愛らしい姿をしています。

トキワハゼ(常盤はぜ、ハエドクソウ科サギゴケ属)は、ゴマノハグサ科にありましたが最近 APG 分類体系によりハエドクソウ科に移されました。ハエドクソウ科はそれまで1属1種でクマツヅラ科に最も近い科でした。今般、ゴマノハグサ科等から仲間入りして、1属から10属以上のハエドクソウ科になりました。

トキワハゼは1年草で全国に分布し、やや乾いた道端や庭の片隅など地表に張り付くように生育する可愛らしく余り目立たない植物(図1)です。花は唇形で萼片が5枚花弁も基本的には5枚が合着しています。上唇は紫色の2枚からなり先が浅く窪み、淡紫色の下唇には3枚を配し3裂しています。上唇の下には長短2本ずつの雄しべと1本の雌しべが隠れています。柱頭は上下に2裂して開いていますが、何かが触れると閉じてしまいます(柱頭運動)。花粉をぱくりと取り込むのに好都合なのでしょう。下唇の中央には白色の2つの盛り上がりがあって毛が生え、その中程に黄色い模様があります(図2)。葉は根元の物が大きく先が丸いスプーン状で、周りに浅い切れ込みが少しあります。茎からは匍枝(匍匐茎)を出さず、もっぱら種子の散布で繁殖します。花が終わると萼片に包まれたさく果を結び、成熟すると実は「はぜ」で種子を放出。そして種子は休むことなく発芽します。その期間は3~11月に及び、生育期の殆どに花をつけ、種子を飛ばし繁殖する所から、トキワハゼの名が付いたようです。

これと同属でとても花の形の似ているものにサギゴケ(鷺苔)があります。この花は紫色が強く、上唇は深く2裂しネコの耳のように(?)先がとがり立っています。その下には大きな柱頭の雌しべがあり、下唇の盛り上がりには太い毛が生え黄色をしており黄褐色の斑紋があります(図3)。花期は4~5月です。やや湿り気のあるあぜ道などの日当たりの良い所に生育する多年草で、匍枝を伸ばしても繁殖します。



図1. トキワハゼ



図2. トキワハゼの花



図3. サギゴケの花

巨樹・history⑥ 長野原町：草津街道近くにある「大津のヒイラギ」

第7期生 浦野 安孫

吾妻川沿いを走る国道145号が草津街道と分岐する「大津の犬塚の信号」の手前約100m、右手の小道を少し登ると、町指定の「大津のヒイラギ」の巨木(写真1)がある。国や県の巨木一覧表にヒイラギの木の記載例は少なく、あっても何れも認定基準の樹幹周3mを満たしていない。そのため、樹幹周2.1m、樹齢200年以上のこの「大津のヒイラギ」も貴重種と言う事になり、町の文化財に指定されたのだろう。木枯らしが吹く昨年12月、現地を訪ねると葉に隠れるようにひっそりと白い花が咲き、付近に甘い香りも漂っていた。

ヒイラギは漢字で、「柞木」あるいは「疼木」と表記される。冬に花を咲かせる木にはヒイラギの他にビワやシロダモ等もあるが、ヒイラギに「木偏に冬」の字が当てられた理由は分からない。一方「疼」の字は「ヒヒラグ」と読まれ、ひりひり痛む事を意味するから、葉のトゲに触ると「ヒヒラグ木」が転化し、「ヒイラギ」になったと言われる。このトゲを思わせる鋭い鋸歯があるため、ヒイラギは生垣や節分の時の邪鬼除けに使われる。ところが、大津のヒイラギの葉には(写真2)の通り鋸歯はなくほとんど全て全縁だった。ヒイラギの鋸歯は動物からの食害を免れるためのものだから、成長と共に不要になり、退化すると言う。サンショウやハリギリの若い幹に棘があり、老木には無いのと同じだ。また若い時は尖っていた人でも、年と共に角が取れ、丸くなるのにも似ている。

このヒイラギの古木は屋敷の丑寅の方角にあるから、魔除け用に植えられたと思われるが、これを植えた人が思い描いた「魔」は、一体何だったのだろうか…。地域の歴史や地形から考え、「浅間の鬼」が考えられる。1783年8月に発生し、吾妻川を流れ下った「浅間の天明泥流」は、この家のすぐ下流域にある新井村を押し流し、一小村を消滅させている。その惨状を知った当家の先祖は、危険と恐怖、将来への不安を感じ、縁起木のヒイラギの木を植え、神にも祈る気持ちで未来永劫の家内安全を願ったのではないかと…。そして約250年、「ヒイラギの古木は残り」、子孫の安全、平和が保たれた…。想像、逞し過ぎたのだろうか……。



写真1. ヒイラギの古木



写真2. 鋸歯の無い葉と花

<協会の声>

今年の春

第18期生 高橋 豊

2月に「大人のための自然教室」を終了した頃、新型コロナウイルスの猛威が世界中で大爆発、4月19日のインプリの総会も中止。そして、これを書いている今日6月2日、幸いにも日本や世界各地でコロナの勢いが緩和され始めている。

このまま順調にコロナが終息に向かうことを切に願わずにはいられない。

「人生は全ての事が起こる場所」と言ったインドの賢者の言葉が思い出される今日この頃だ。「今すでに人類は文明の大転換期に入っている」と唱える人達がいるが、最近、この説に共感を覚えるようになった。

こんな地球の状況下だからこそ、仲間と共に自然を観察し、大切にしながら生命の源である大自然を次世代に受け継いでいくことをテーマにしているインプリの仲間入りをさせて頂いて、とても嬉しく思っている。



<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
7月12日(日)	自然体験事業①「夏の赤城山の自然を観察しよう！」	赤城山
7月18日(土)	観音山ファミリーパーク「子ども自然観察会」	県立観音山ファミリーパーク
7月19日(日)	前橋市委託①「森を歩いて生き物を見つけよう、クラフトも作ろう」	おおさる山乃家
7月26日(日)	自然体験事業②「木工を楽しもう！」 中止	あかぎ木の家
8月2日(日)	前橋市委託②「川の生き物を調べよう、水鉄砲も作ろう」	おおさる山乃家
8月9日(日)	会員資質向上研修⑦「シカ食害対策アミ巻」	赤城小沼周辺
8月14日(金)	自然体験事業③「赤城の自然を楽しもう！」 中止	赤城山覚満淵周辺
8月22日(土)	わくわく子どもまつり「小鳥の巣箱作り」 中止	前橋プラザ元気21 Mサポ
8月22日(土)、9月21日(土)	観音山ファミリーパーク「自然観察会」	県立観音山ファミリーパーク
7月18日(土) 25日(土)、8月8日(土) 22日(土)、9月12日(土) 26日(土)		森林整備 インプリの森他

<編集後記> 今回の新型コロナウイルスで私たちの日常生活は大きな影響・制限を受けました。他国や過去の例からも、第二波、第三波は必ずやってくるようです。ワクチンや治療薬ができるまでは「日常生活」と「経済活動」の微妙なバランスが続くのでしょうか。(酒井)